

## 足立のNPOと住民

# 環境に優しい農園作り

実践を通して環境問題に取り組み、足立区の環境NPOが地元住民と協力して農園運営を行う「足立グリーンプロジェクト」に挑戦している。家庭生ゴミから作ったたい肥と雨水を利用して、二平方メートルの荒れ地を農園に変えた。この取り組みに、区や全国の自治体、議会、NPOから見学者が続々と訪れている。

# 江東版

江東支局  
豊田区江東橋  
2の13の4  
ホーメストリートビル  
〒130-0022  
電話(363)6116-8  
FAX(3632)2530  
広告連絡  
(5226)9955

購読申し込み  
フリーダイヤル  
0120-0000-81

情報力と合格力。

EI・KOH seminar

栄光  
ゼミナール

03-6120-315-853



## 荒れ地開墾／生ゴミ肥料に

同区六町一丁の住宅地の一角にある農園には、週末の朝になると、たい肥の入ったバケツを手にした人々数十人が集まってくる。四方四方ごとにロープが張られた畑には、小松菜やブロッコリーなど冬野菜が収穫の時を迎えている。

「昨年の夏まで、青の高さほどもある雑草が茂り、マットレスやタイヤが捨ててあった場所だを信じられますか」。プロジェクトの発案者、平田裕之代表(29)は目を細める。

区所有の区画整理用地だが、長年放置状態だった。近くに住む平田さんは昨年八月、「足元

から環境問題を考える農園にしたいので貸してほしい」と区役所に提案。年間六十平方メートルの草刈り費用がかかっていた区は管理などを条件に承諾した。

平田さんは、農園の目的は、地球温暖化とヒートアイランド防止などの環境対策。それが区民意識との違いです。熱を遮断するクワイヤやビオトープも設置した。

担い手は、百三十三人の「エコ・ボランティア」。五十代から七十代が中心で、大工、運転手、弁護士、定年退職者など幅広い年齢層だ。男性メンバーは「今は楽しくて、日中畑にいる」。女性メンバーは「F1を出すが週一回に減った。環境のことを考え生活する習慣が身につきました」と効果を感じている。

平田さんは、学生時代にアメリカに留学、野外教育を学び、川下りガイドをした。帰国後、いったん就職したが、環境活動に再び身を投じた。

「実は、農業は未経験。役所には、こんな状態の土地では農園なんて無理だと言われた。農家の人の指導やお年寄りの知恵などで、支え合って、ここまでやれた」と平田さん。今後は、総合学習の時間などで学校と連携していきたいと意欲を燃やしている。



雑草が覆い尽くした未開発地がほとんどなかった(昨年8月)

わずか4か月で荒れ地をエコ農園に変えたボランティアたち